

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol. 25をお届けいたします。

facebook



11月のTOPICS

■ 臨床現場で「FMD検査はこう使われています」 ～FMD値が3%未満で無症候性冠動脈病変を発見する～

現在、日本全国で約1,000台の導入が進んだユネクスイーエフですが、大学からクリニックまで幅広い分野でお使い頂いております。今回は実際にクリニックの先生がおこなっているFMD検査の活用法をご紹介します。

埼玉県さいたま市にある医療法人中山クリニックでは2014年に機器をご導入頂き、現在までに1,000例以上の検査をおこない、数多くの患者さんの心血管疾患を早期に発見し治療に役立てて頂いております。

2014年1月4日から2016年8月31日までに測定した1162件のデータから傾向を分析された結果、FMDが低値なほど冠動脈疾患の確率が高い結果(図1)となり、生活習慣病患者の外来診療では、冠動脈疾患のリスク因子とFMDの値を考慮してその後の診療方針を決めているそうです。(図2)

患者さんにとって全身の動脈硬化指標となるFMD検査をうけるハードルは低く、結果もシンプルで分かりやすいとおっしゃり、心臓の精密検査となれば冠動脈CTやカテーテル検査など、大きな病院で精査してもらう検査になります。症状のない患者さんに『冠動脈の精密検査を受けてください』と言っても、なかなか納得してくれませんが、FMD検査の結果を示して説明することで、精密検査が必要なことを理解してもらっています。実際にFMD検査の結果がきっかけで冠動脈バイパス手術にまで至ったケースはいくつもあり、FMD値が低い場合、血圧、脂質、喫煙、家族歴などtotal risk factorを加味して、症状や心電図異常が認められなくても狭心症や心筋梗塞の可能性が考えられます。

図1 FMD別の患者数と冠疾患罹病率

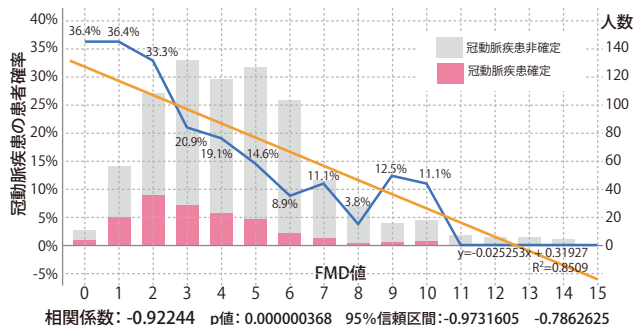
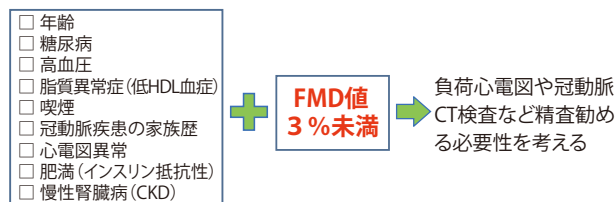


図2 当院での生活習慣病患者数の外来診療



FMDが有用であった症例提示

61歳 男性 (高血圧で通院中)
身長 168.7cm 体重 77.8kg
BMI 27.3
HDL 46mg/dl LDL 108mg/dl
TG 189mg/dl
HbA1c 6.2% 健診では心電図異常なし

図3 FMD

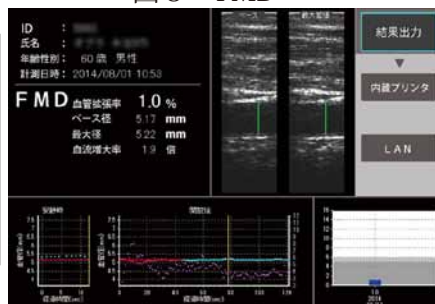
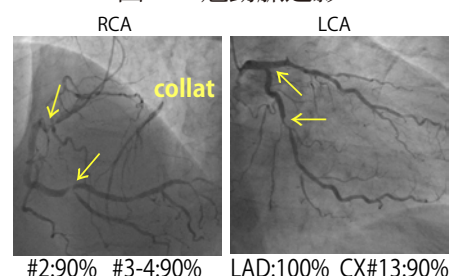


図4 冠動脈造影



当院に通う高血圧患者さんで、FMD値が1.0%という方がいました(図3)。その患者さんは心症状はありませんでしたが、母親が心筋梗塞既往歴があり家族歴も加味して、病院での冠動脈検査の必要性説明をし、カテーテル検査を受けてもらった結果、三枝病変が発見され(図4)、近隣の大学病院で冠動脈バイパス手術を受けました。

糖尿病患者など症状を訴えない患者にFMD検査は冠動脈スクリーニングに有用な検査と考えられます。

引用:「医療法人中山クリニック」ユーザーレポート